

海外安全対策情報（2022年第2四半期）

在ギリシャ日本国大使館

1 社会・治安情勢

新型コロナウイルス感染対策として、ギリシャ政府は国内制限措置を講じてきたが、感染者数の減少とともに、段階的に緩和されつつある。ワクチン推進など、ギリシャ政府の各種政策に対する抗議集会が散発的に行われているが、規模も小さく、治安への影響は少ない。

- (1) 凶悪事案は多くないものの、窃盗事件が多発しており、特にアテネでは地下鉄・駅等での邦人のスリ被害が極めて多い。
- (2) アテネでは各種労働組合等によるデモや抗議集会が連日のように行われている。大半は平和的に行われるが、一部が暴徒化することもあり、一定の注意が必要。
- (3) アナキストグループの活動が活発であり、様々な口実で、政府関連施設、企業、各国大使館等に対する攻撃を行っている。今後、何らかの理由で日本関連施設が標的となる可能性も排除できない。アテネやテサロニキでは、深夜に警察官に対する火炎瓶等による攻撃が散発的に行われている。
- (4) フェリーや地下鉄などの公共交通機関が全面的に運休する大規模なストライキが、度々行われている。
- (5) ロシア軍によるウクライナ侵攻以降、ウクライナからの避難民が約6万人当地に逃れてきているが、当地に親族がいるケースが大半であり、これまでに当地での社会摩擦などは生じていない。また、ロシア軍侵攻に反対して、当地在留ウクライナ人および支援者による抗議活動が行われているが、いずれも平和的に行われている。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 最新統計（2021年版）では、主要犯罪発生数は前年比で以下のとおり変動。

・侵入窃盗	16,249件	(前年比	17,141件	-892件)
・置引き	60,892件	(前年比	63,808件	-2,916件)
・強盗	106件	(前年比	74件	+32件)
・乗り物盗	20件	(前年比	20件	±0件)
・詐欺	5,386件	(前年比	4,455件	+931件)

- (2) パンデミック禍で当地への邦人旅客数は大幅に減少しており、現在、邦人被害は一時的に少なくなっているものの、アテネでは邦人のスリ被害が極めて多く発生しており、特に地下鉄車内や駅、シンタグマ広場周辺に被害が集中している。主に腕利きの犯罪集団による犯行であり、在留邦人や旅慣れた旅行者が多く被害に遭っている。

【代表的な邦人被害事案の手口】

- ア 邦人被害では、アテネの地下鉄や駅におけるスリが最も多く、知らぬ間にリュックサックや鞆を開けられ財布等を盗まれている。被害防止のため、リュックサック等を身体の前でしっかり保持することが重要である。
- イ シンタグマ広場やオモニアでは、話しかけられたり、液体をかけられたりして、荷物から目を離した隙に鞆などを盗まれる被害が多発している。
- ウ 5月にハランドリ市内居住の邦人が短時間外出した際、空き巣に入られる事件が発生しているため、短時間であっても、雨戸を含めた各戸の施錠や警報装置を起動することが重要である。

3 テロ・爆弾事件発生状況

5月に何者かによるアテネ市内において手製爆発物（爆発に至らず）を仕掛ける事案が発生したほか、深夜にATMを破壊する事件が発生している。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人等に対する誘拐事件及び脅迫事件は把握していない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

具体的な問題は把握していないが、当地では、環境問題や労働者の待遇、解雇や作業事故などを口実として、アナキストが企業を攻撃するケースが多く発生しており、注意を要する。